

国立 鹿児島工業高等専門学校

プログラムの名称：新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム

プログラム担当者：機械工学科 教授・学生主事 三角 利之

キーワード

1. クラブ活動
2. 地域連携
3. 外部指導者
4. 霧島市教育委員会
5. NPO法人隼人錦江スポーツクラブ

1. 高等専門学校の概要

本校は、実践的な開発型技術者を育成することを目的として、中学校卒業後から5年間の一貫教育を行う高等教育機関として1963（昭和38）年に設立された。

現在、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、土木工学科の5学科で構成されている。

本校の教育面の特徴は、準学士課程5年間の一貫教育であるが、2000（平成12）年度には準学士課程と有機的に結合する2年間の専攻科課程を設置し、入学定員の1割の学生に対して、計7年間の効果的な高等教育を実施している。2003（平成15）年には日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査「教育プログラム名：環境創造工学」に合格し、JABEEの認定校となった。

本校の教育理念として、「幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する」ことを掲げている。この教育理念に沿って、技術者に必要とされる技術・知識の教育はもとより、学生の人間性の涵養を図り、リーダーシップ、協調性、自主性などを育成するために、学生会活動やクラブ活動等の課外活動を全学的に支援している。

2. 本プログラムの概要

クラブ活動は、学生の心身ともに調和の取れた全人教育の観点から、極めて重要な教育活動である。本校では、全教員がクラブ活動の顧問として、積極的にその指導に当たっている。しかし、教育現場における人的、物的、財政的等の要因により、クラブ活動の指導教員が、その指導内容、安全な活動の実施について十分対応できていないのが現状である。

そこで、本プログラムでは、総合型地域スポーツクラブ「NPO法人隼人錦江スポーツクラブ」や「霧島市

教育委員会」と連携し、地域に潜在する有能な人材を外部指導者として登用し、学生の活気あるクラブ活動を積極的に支援するための学生支援システムを構築する。

さらに、クラブ活動を地域住民の生涯学習の場としても機能させ、地域住民が学生とともにクラブ活動に参加することによって、世代間の交流や地域住民との交流を促し、クラブ活動を通じて学生の人間性の涵養を図る地域連携型の共同教育を実施する。

3. 本プログラムの趣旨・目的

(1) 本取組を実施するに至った動機や背景

昨今、社会性や協調性、忍耐力等の欠如により、社会に適應することができず、社会人として充実した生活を送ることのできない若者が増加しており、社会問題となっている。

社会性、協調性を備えた社会人、基本的な生活習慣を備えた社会人等、人間性豊かな社会人が今後益々求められる。よって社会人の準備段階でもある学生生活では、社会の厳しさにも耐えることができる、生きる力を持った学生を育成することが必要であり、クラブ活動の重要性は極めて高い。

本校は課外活動の一環としてのクラブ活動が、体育・文化系ともに非常に盛んであり、本校学生のクラブ活動加入率も約8割と非常に高い。学生は各種大会等での好成績を狙うと同時に、クラブ活動を通して心身の修養に努め、民主的な社会人として生きていけるよう、日頃から意欲的に活動している。

クラブ活動における団体活動の中で得られる社会性や協調性、リーダー性、忍耐力等については、授業等では体験し得る機会が少なく、クラブ活動での体験は非常に貴重なものと言える。

しかしながら本校では下記のような様々な事情により、クラブ活動への有効な支援が行えない状況となっ

できている。

独立行政法人化に伴う労働基準法の適用により、クラブ活動指導に関して、多くの教員は、実質的には時間外労働を行っている。

本校の教員は、教育だけではなく、研究、地域貢献にも精力的に取り組んでいる。さらに、定員削減や経費削減等により、1人当たりの校務分掌も増加し、課外活動まで時間を割くことが難しくなった。

安全なクラブ活動を行うためには、教員が活動中は常駐しなければならないが、事実上無理である。

安全面での責任や保障が社会的に問われる時代となり、教員の心理的負担も大きい。

指導教員がその分野の専門ではない場合が多く、適切な指導ができない。

このような問題点を解決し、学生が充実したクラブ活動を行えるよう支援する体制を整備する必要がある。

(2) 本取組は高等専門学校においてどのような意義があるか

学校教育の一環を担うクラブ活動をはじめとする課外活動は、豊かな人間性を高めるべき情操教育の柱である。本校では、クラブ活動を全人教育の一環として位置付けていることから、学生の自己表現の場でもあるクラブ活動を積極的に支援していく必要がある。

そのためには、本校のクラブ活動支援における諸問題点を解決し、学生が充実したクラブ活動を行えるよう、地域の有する教育力を活用するとともに、地域住民との交流を深めることが重要である。

そこで、本取組では、地域に潜在する有能な人材を外部指導者として有効に活用しクラブ活動の積極的な支援を行う。

さらに、クラブ活動に地域住民が参加できる環境を整備し、学生が様々な年代や立場の人とコミュニケーションを図ることができるよう支援する。

これにより、地域から愛され、地域に開かれた学校づくりへとつながり、『新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム』が構築される。また、本校が地域住民の生涯学習の場として多いに活用されることにより、地域の文化活動にも貢献できる。

4. 本プログラムの独自性(工夫されている内容)

本プログラムの独自性は、本校をスポーツ・文化活動の拠点として広く地域に開放し、地域住民参画型のクラブ活動支援を行うことにある。本プログラムの概

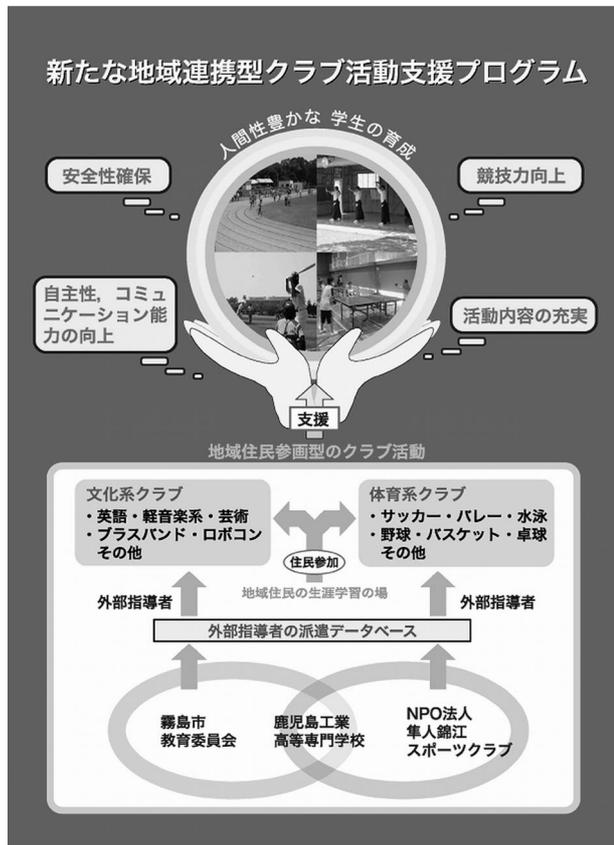


図1 本プログラムの概要

要を図1に示す。

(1) 地域の人材を活用した指導者発掘システムの構築と優れた人材の登用

本校が霧島市と連携し活動している組織に総合型地域スポーツクラブ『NPO法人隼人錦江スポーツクラブ』がある。『NPO法人隼人錦江スポーツクラブ』の活動状況は、図2に示す通りである。

本スポーツクラブでは、本校が所在する霧島市を中心とした地域住民と本校学生の併せて約800名が会員となっており、早朝から夕方まで本校の施設を最大限活用し、10種目の競技等を開講している。

本スポーツクラブの指導には、特定の競技について専門的技能を有する本校教職員が携わっている種目もある。

また、本校は、円滑かつ密接な連携の下に、学校教育、生涯学習、生涯スポーツ等の分野において相互に協力し、地域の町作り、教育研究の充実及び人材の育成に寄与することを目的として、『霧島市教育委員会と連携協力に関する協定』を締結している。これまで、この協定に基づいて、出前授業を中心とした小・中学校への教育支援を行っている。

NPO法人隼人錦江スポーツクラブ

● 開講種目

- ・グランドゴルフ ・ゴルフ ・サッカー
- ・バドミントン ・ソフトテニス ・テニス
- ・ゲートボール ・陸上競技 ・囲碁
- ・バスケットボール

● 会員数

- ・平成 17 年度
850 名
- ・平成 18 年度
751 名



健康スポーツ中核地域の創造

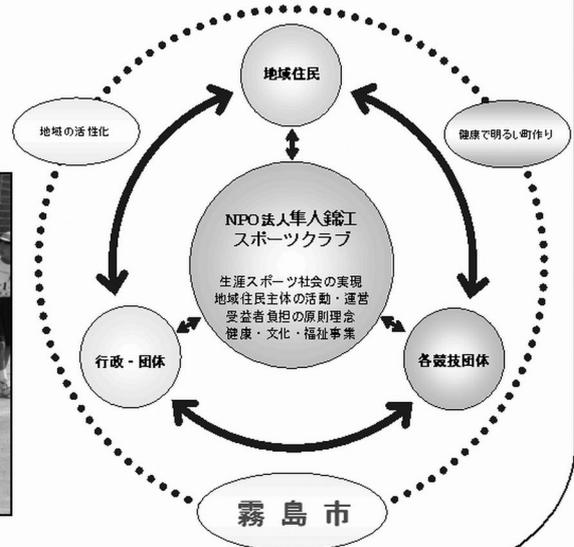


図2 NPO法人隼人錦江スポーツクラブ

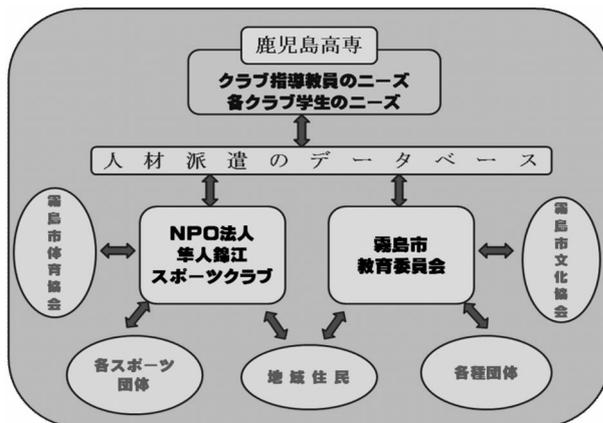


図3 指導者発掘システム

本取組では、図3に示すように、この2つの組織を最大限活用して、専門的素養を有し優れた外部指導者を発掘・登用するシステムを構築する。

すなわち、体育系クラブに関しては、本スポーツクラブを中心に、各分野において現役で活躍している人、または現役を引退したが指導意欲のある人など、地域に潜在する有能な人材を霧島市体育協会、各スポーツ団体の協力を得ながら発掘する。

文化系クラブに関しては、霧島市教育委員会のもつネットワークを活用して人材の発掘を行う。発掘された人材は、その専門分野・資格等の情報と併せて、デ

ータベースに登録され、本校のクラブ指導教員または学生のニーズに応じて、外部指導者として登用される。

(2) 世代間交流による学生の人間性育成

クラブ活動の指導面において優れた地域の指導者を登用するとともに、その優れた指導に基づく本校のクラブ活動を地域住民の生涯学習の場としても機能させ、地域住民にも開放し、その参加を促す。この活動に地域住民が学生とともに参加することによって、学校の枠組みを超えた新たな学生の学びの場が構築される。

これに伴い世代間の交流が育まれ、学生の人間性育成に役立つ。さらに学生が広く地域住民との交流を深めることで、本校が地域に根ざした文化活動の拠点となり、活力ある街づくりに貢献できる。

(3) 外部指導者に対する資質向上のための取組

登用する外部指導者が、クラブ活動において優れた指導力を発揮するには、指導意欲を高めるための工夫が必要である。

そこで、外部指導者に救命救急講習やメンタルヘルス研修などを実施するとともに、教育心理学や発達心理学等の講習会を受講する機会も積極的に作り、学生の精神的な支援を含めた教育的素養の向上を図るための、指導者に対する支援活動も随時行う。

5. 本プログラムの有効性（効果）

（1）本取組により期待される効果

本取組により、学生にとって以下のような効果が期待される。

（i）クラブ活動における安全性の向上

教員の多忙化等により、教員がクラブ活動に随時同伴する事は不可能である。外部指導者を登用することにより、活動中に指導者が同伴することが可能となり、安全面でのサポート体制も確立できる。

また、専門的素養を有する指導者を配置することで、その競技特有の事故等を未然に防止する指導も可能となる。

（ii）学生の競技力向上

専門的素養を有した指導者による適切な技術指導や、専門的な知識面の指導が可能となり、学生の競技力向上と成績アップへとつながる。

（iii）活動内容の充実

学生のニーズは現在でも大変幅広く、さらに、新たなニーズに対しても、教職員だけでは支援できない場合もある。地域の人材を発掘し、外部指導者を登用することにより、学生の立場に立った体育・文化系両面の幅広いニーズに、できるだけ対応したクラブ活動支援が可能となる。

（iv）自主性・コミュニケーション能力の向上

本取組により、日頃のクラブ活動の充実が図られてくると、クラブ活動へのモチベーション向上が期待される。学生の意欲的な活動は、学生の自主性を育む。さらには、地域住民が外部指導者となり、また、地域住民がクラブ活動参加者となることで、学校と地域との距離が縮まり、本校と地域住民との交流にもつながるものとする。このことは、学生の自主性・コミュニケーション能力の向上につながる。

（v）学校全体の活性化

クラブ活動の内容が充実すると、活気があふれる。クラブ活動に活気があふれることは学生個人の資質向上になるとともに、クラス・学校全体への波及効果が生まれ、学校全体の教育・研究活動の活力となる。このクラブ活動の充実が、エネルギーに満ちた元気のある学校へとつながり、本取組の及ぼす学生への効果は非常に大きい。

（2）現在のクラブ活動支援体制との相乗効果

また、現在のクラブ活動支援体制でもある全教員による指導体制との相乗効果として、指導教員と外部指

導者が連携を取ることで、スクールタイムの学生の様子などを外部指導者へも伝えるなどして、外部指導者が学生のメンタル面でのサポートも行える。

（3）本校の教育活動との関連性

本校の教育活動は「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成すること」を目的として行われている。本取組の効果として、学生のリーダーシップ、協調性、自主性などの人間的な素養が高められることから、本取組は本校の教育目的の達成に大きく貢献する。

6. 本プログラムの改善・評価

本プログラムの評価・改善システムを図4に示す。

本取組に関する具体的な事項は、学生委員会が中心となり計画する。その計画に基づき、各クラブにおいて本取組が実施され、その後、自己・点検評価委員会において、安全面の向上、競技力の向上、活動内容の充実、自主性・コミュニケーション能力の向上の観点について、学生、クラブ指導教員、外部指導者、地域住民等の視点から評価を行う。

これらの観点から評価する際、各クラブ部員、本校クラブ指導教員、外部指導者に対して、評価アンケートを実施する。

このアンケートから得られる結果を基に、この取組

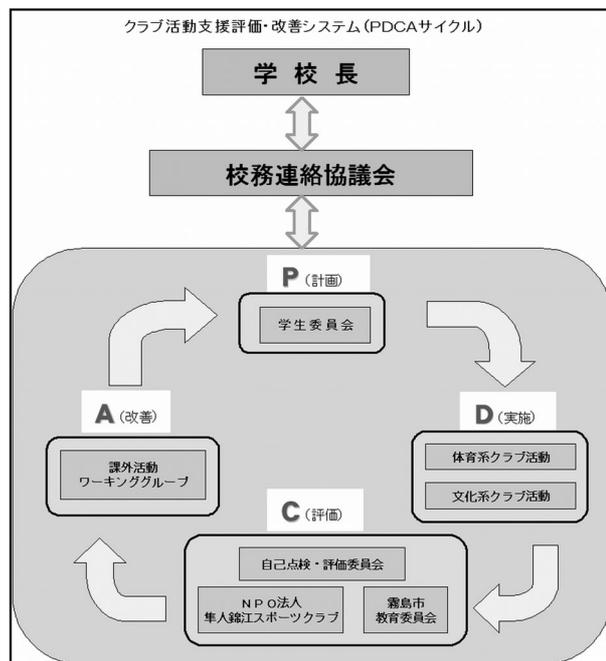


図4 本プログラムの評価・改善システム

の効果进行分析する。さらに外部評価として、『NPO法人隼人錦江スポーツクラブ』と『霧島市教育委員会』と本校との意見交換の場を定期的に設定し、本校や指導教員、学生に対する意見や要望等も聴取する。

この分析結果をもとに、課外活動ワーキンググループが改善策を検討する。このようなPDCAサイクルに基づいた評価改善の体制を整備する。

本取組の実施と評価・改善結果は、ホームページへの掲載や地域フォーラム等を開催し、地域住民や教育関係者に対し広く公表する。一方、他の大学等における魅力あるクラブ活動支援策も積極的に採り入れるため情報収集活動も行い、本取組の充実を図る。

7. 本プログラムの実施計画・将来性

(1) 実施計画

2007(平成19)年度実施計画

指導者発掘システムの構築

本校が『NPO法人隼人錦江スポーツクラブ』・『霧島市教育委員会』と連携して、指導者を発掘するための情報を収集し、人材データベースを作成する。この作成には、事務処理に伴う人件費、パソコン等の設備費、打ち合わせのための会議費、外部指導者への謝金等が必要となる。

地域住民参画型のクラブ活動のPR活動と実施

本校のクラブ活動を地域住民の生涯学習の場として機能させるために、地域住民にも開放し様々なクラブ活動への参加を促す。その広報活動として、本校、隼人錦江スポーツクラブ、霧島市の各ホームページや霧島市広報誌等に本取組の内容を掲載する。

体育系クラブに関する設備の整備

外部指導者による専門的な技術指導や戦術指導等が実践されると、学生のモチベーション向上が期待される。学生の自主的な活動が促進されてくると筋力トレーニングなどの自主的な練習も盛んになる。しかしながら、本校の筋力トレーニング室の設備は古く、効率よいトレーニングを行うには難しい状況にあり、かつ安全性にも欠ける。そこで、筋力トレーニング室の設備や器具の充実を図る。

整備後の筋力トレーニング室は、本校のクラブ活動に参加する地域住民にも開放し、いつでも利用できるようにする。また、クラブ活動が安全に行われるよう、筋力トレーニング室やグラウンド等の活動場所には、AED及び緊急時連絡用電話機を設置し、体育館には室内用の防球フェンスを整備する。

さらに、学生や地域住民が良いグラウンド環境の下で活動できるように、整地用軽車両によるグラウンドの環境整備向上を図る。同時に、休息時や運動後の環境を整備するために、冷水機・製氷機も充実させる。

文科系クラブに関する外部指導者の登用と設備の整備

本校の学習・教育目標の「グローバルに活躍する技術者」を育成するために、文化系クラブの中で、特に英語部を中心とした活動への支援は必要不可欠である。そこで地域に在住する外国人を外部指導者として招き、質の高い語学指導を受けられるようにする。さらに、学生と地域住民が効率的な英語学習を行えるよう、パソコンを用いた最新の視聴覚器材も整備する。また、ロボット製作など「ものづくり」のための課外活動への支援として、地域企業等の人材を積極的に登用する。その他、プラスバンド部、軽音楽部、美術部のような芸術に関するクラブについても、教育委員会と連携し地域が有する芸術に秀でた人材を発掘し活用する。

他の先進的なクラブ活動支援の情報収集

他の高等教育機関等で実施されている優れたクラブ活動支援を含む学生支援に関する情報収集を積極的に行うとともに、フォーラムを開催し地域住民などから率直な意見・要望等を聴取し、本取組への参考とする。

2008(平成20)年度実施計画

2007(平成19)年度の取組の評価

2007(平成19)年度の本取組に関して、学生、指導教員、外部指導者等に対するアンケート調査、フォーラムの開催、他の高等教育機関におけるクラブ活動支援への取組の調査等を行い、本取組についての評価を実施する。

改善策の検討と実施

上記で得られた評価結果を基に、本取組が継続して実施されるための改善策を検討する。特に、各クラブへの外部指導者の積極的登用、地域住民との交流、生涯学習の観点から、より魅力的な取組になるような改善策を提案し実施する。

(2) 本取組の将来性

高等専門学校は高等教育機関ではあるが、大学・短大とは異なり15歳から20歳までの学生が在籍している。この年代の若者の精神的発達著しく、様々な経験を積むことで人間性が養われる時期でもある。この時期にクラブ活動を経験することは、豊かな人間性の涵養にとって極めて重要である。

事例70 鹿児島工業高等専門学校

本取組は、地域に潜在する有能な人材を活用し、さらに、地域住民との世代間交流を図ることにより、クラブ活動の取組を効果的に支援するものである。

このような地域連携型クラブ活動支援は、将来的にも高等専門学校教育において益々重要となる。補助期

間終了後も本取組を継続的に進めていくためには、特に、外部指導者を登用するための費用確保が必要となる。そこで、将来的には、学生、保護者、地域住民による自己責任、自己管理、受益者負担の原則に基づいた地域連携型クラブ活動支援へと発展させていく。

選 定 理 由

鹿児島工業高等専門学校においては、学生支援に関する理念と目標に基づき、今回申請のあった「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」の取組は、総合型地域スポーツクラブという新しいクラブ組織と連携することにより、学校という画一的な環境を飛び出し、一般社会の人々と接することにより、学生の人間性を高める上で役立ち、さらには地域貢献に発展する可能性を持った取組であると言えます。

独立行政法人化により、工業高等専門学校が将来を見据えた新たな取組にチャレンジする中で、クラブ指導に十分に対応できない場合にも、有能な指導者の下で学生の競技力向上を目指し、より良い環境造りに貢献できるものと判断します。学生が勉学以外の分野で活躍の場を与えられるということは、学校生活に対する意欲向上に繋がるものと思います。他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。